ムツウサ

糖尿病予防に効果

専門家が研究成果紹介

「第二回地域資源（ムツウサ）を活かしたしま興し講演会」（主催・城辺町、共催・武蔵野免疫研究所、かぎすま宮古）が十八日午後、平良市のマティダ市民劇場で開催された。学識者ら五人の専門家が研究の成果を発表し、ビデンス・ピローサ（方言名・ムツウサ）の特色や有効性を強調した。会場には三百人以上の聴衆が詰め掛け、各地で雑草と呼ばれ続けてきたビデンス・ピローサの効用に驚くとともに、その可能性に理解を示した。

星薬科大学教授の瀬山義幸さんは宮古ビデンス・ピローサの特色について説明。「ビタミンのE、Cに類似した成分があり、抗酸化作用を持っていて、糖尿病や胃かいようの予防に効果がある」と強調。糖尿病効果については「血糖値を下げるとともに、血中のインスリンの量を増やすため」と説明した。傷を治す創傷効果や、動脈硬化を和らげる効用があることも付け加えた。

水戸済生会総合病院の飯島茂子さんは、ビデンス・ピローサを原材料としている「かんぽう茶」について講演。研究の結果から、夏の季節に足にかいようができる「夏季かいよう」に予防的効果を発揮するとの推測を立てた。

倉敷生活習慣病センターの姫井孟さん、ナリス化粧品常務で日本化粧品技術者会副会長の河本昌彦さんも、それぞれビデンス・ピローサについて説明し、その効用を強調した。

最後に講演した北里大学医学部教授の増澤幹男さんは「皮膚疾患に於けるかんぽう茶の有効性」と題して講演した。「かんぽう茶はかかせなくなった」と前置きし、飯島さんと同様に夏季かいように効用があると強調。さらに口内炎（アフタ）や霜焼けの予防効果もあると断言した。増澤さんは「かんぽう茶は血行の循環をよくし、病気を治す上に、炎症を抑える作用もある。かんぽう茶は今、われわれにとっても、患者にとっても単なるお茶ではない」と話し、かんぽう茶の服用を勧めた。

5人の専門家がビデンス・ピローサの特色や効用を紹介した＝18日、マティダ市民劇場